

## 令和7年度 参加者の声



林 芽依さん  
(高校3年)

プロジェクト参加前は、一般知識に基づいた客観的な意見を求められると思っていました。しかし、実際に参加してみると、「自分は生活の中でどう感じているか？」といった、中高生ならではのアイデアが大切だと気づきました。

また、自分たちの意見が政策に活かされるということを忘れず、常に緊張感を持って取り組めたと思います。



長谷川 圭介さん  
(高校3年)

初めはみんな違う学年、違う学校で互いを必要以上に意識してしまい、議論は活性化するが発展しないといったことがありました。しかし、回数を重ねていくにつれ、壁が取り各々が自分の考え、理想を語れるようになりました。

議論の中では学年や知識の差などは感じるものがなく、この議論を良くしたいという思いが強かったです。



中島 知葉さん  
(高校2年)

私はあまり意見を言うのが得意でなかったのですが、どんな考えでも議論の対象にしてくれて受け入れてくれたおかげで積極性が身に付き、プロジェクトが終わった後も日々の学校生活の面々で意見を言うことに抵抗がなくなりました。

このプロジェクトを通して、私は「政策は机上で作るものではなく、人と向き合い、視点を重ねながら形にしていくものだ」ということを実感しました。



黒坂 藍さん  
(高校1年)

今回のプロジェクトのテーマである「アントレプレナーシップ」という単語をこのプロジェクトを通して初めて知ったメンバーがほとんどで、みんなで一から定義づけを行ったり実施例を探し実際に訪問したりと、難しいテーマでしたがメンバーと協力し都の職員の方のサポートもありながら、無事完成度の高い政策を小池都知事へ提案できたのではないかなと思います。



江藤 志真さん  
(中学3年)

挑戦者を生み出す東京へ、という目標は一人だと大きく感じ、最初は困難だと考えていましたが、東京都の方々とプロジェクトメンバー、TIBでの講演会などを通して、周りの挑戦者を増やすことと同時に、自分自身もアントレプレナーシップを身につけることができ、人間として成長できたと感じています。これからも様々なことに挑戦したいと考えるようになりました。



鈴木 七奈実さん  
(中学3年)

今回のプロジェクトを通して、学校の先生方とは違う、普段関わることのない大人の方々との交流やスピーチ、また、他校・他学年の仲間と議論するという、とても貴重で刺激的な経験ができました。東京都の職員の方々が高中生の挑戦を全力でサポートしてくださり、仲間としっかりと議論を進めることができました。

同じ志を持つ大切な仲間と出会えたことも、このプロジェクトの大きな財産です。